

# 全国に先んじて芽生える 新しい地域活性化の仕組み

『地域再生のフロンティア』中国山地から始まるこの国新的なかたち』シンポジウム開催

「過疎の先進地」中国山地がこれまで地域活性化の方策を考えるシンポジウムが松江市で開催され、地域活性化に関する様々な提言がありました。また、このテーマをもとに、島根県中山間地域研究センター研究アドバイザー

## 主役は若者。歯車の逆転は既に始まっている

小田切 徳美氏

明治大学農学部教授、島根県中山間地域研究センター研究アドバイザー



中国山地の地域的特性は三点挙げられます。まず農業の零細性。かつて中国山地には、豊かな資源、さまざまな産業がありました。多くの産業がしっかりと生業としてあって、実は農業はごく部分的だったのです。そしてさまざまな産業が徐々に崩壊し、最終的に残ったのが小規模な農業なのです。

二番目は集落の小規模性・分散性。さまざまな産業、人の往来があったからこそ小規模でも分散していくも生活できました。そして三番目が都市近郊中山間地域であること。大都市部に出てこることが容易です。

これら三つの特性が、そもそも豊かだった中国山地をいつの間にか過疎化させ、解体のフロンティア、崩壊のフロンティアと言われる様な状況が生まれてしまいました。しかし今、解体のフロンティアは再生のフロンティアと変貌しつつあります。いわば歯車の逆転であり、これは既に始まっています。

1990年代の中頃から、人口増加の市町村があります。主役は若者です。地域おこし協力隊などの若者が中国山地の人団塊につながっています。バブル崩壊後、立ち上がりで生きている地域の多くは中山間地域農山村であり、内発的にしか発展できないという覚悟がそこには存在します。地域の中で内発的に事を起こし、住み続ける

覚悟を持つ人が増え、そしてそれがまた人を呼び込む、こうした好循環が始まっています。すなわち、解体のフロンティアがいつの間にか再生のフロンティアにならっているのです。どのように推し進めればいいのか、全国の先駆けとなるのか。皆さんと一緒に考え、実践していかなければ幸いです。

## 中国山地Ⅱ 地域再生のフロンティアの可能性と展望

## 「合わせ技」を取り戻し、好循環が持続する地域に

藤山 浩氏

島根県中山間地域研究センター研究統括監、島根県立大学連携大学院教授

『地域再生のフロンティア』執筆の皆さんにより、地域再生のフロンティア研究会が立ち上げられました。本日は研究会を中心とする最初の意見交換の場。中国地方の中山間地域の地域再生への方策を、分野を横断して共有していかたいと思います。

分野を横断して  
知恵の共有を

島根県中山間地域研究センター  
所長 佐藤 操氏

『地域再生のフロンティア』執筆の皆さんにより、地域再生のフロンティア研究会が立ち上げられました。本日は研究会を中心とする最初の意見交換の場。中国地方の中山間地域の地域再生への方策を、分野を横断して共有していかたいと思います。



## まとめ 実行と継続への “のろしが揚がった”シンポジウム

シンポジウムでは最後に、会場の皆さんが高い関心を持ったキーワードを挙げていただき、そのいくつかをピックアップ。キーワードを選んだ会場の方からご意見をいただき、また、それに対して講演者の皆さんからのコメントがありました。ピックアップされたキーワードは、「小規模多機能自治」「村の駅にみんな集まれ」「まずは口にしてみる」「無しを有りに」「農福医連携」など。

また、今回のシンポジウムの開催を実現した愛知大学三遠南信地域連携研究センターの田邊勝巳氏より、中国山地における取り組みについての感想・ご意見を頂き、加えて島根大学の伊藤勝久氏、作野広和氏からのコメントがありました。



## 小さな力が集まり 大きな改革に

公益財団法人ふるさと島根定住財団  
理事長 藤原 義光氏

本にもありますように、中国山地には今、危機と希望が交錯しています。「地元発の小さな創り直し」の連携・合流が大きな改革に対応する力となることを確信し、各地元で「ここから始める」という気概を持って歩むことが大事だと考えています。



## リレートーク 地域の「新しいかたち」を創る具体的な仕組み、条件を提言します!

### 01 求められる新しいコミュニティの形

田村 尚志氏 山口県総合企画部中山間地域づくり推進課主幹



「手づくり自治区」とし、山口の各地で、集落を超えた新しいコミュニティの形成に取り組んでいます。包括的な横割り組織、子供の参加、住民の強い当事者意識、無理はしない、新法人制度の制定等を実現の柱とし、地域の夢プランづくりを進めています。



会場から 島根県雲南市役所地域振興課 板持 周治氏  
雲南市でも地域自主組織を立ち上げました。交流センターを設け、地域づくり、福祉など、さまざまな活動が生まれています。新しい法人制度の必要性を感じています。

### 03 小さくても夢のあるビジョンを持って

今井 裕作氏 島根県農業技術センター技術普及部農業革新支援専門員



集落営農は協働して農業をする仕組みです。そしてこれは、農業だけではなく、地域の維持、地域づくりをも担う組織なのです。その成功に欠かせないのがビジョン、目標や夢の共有です。小さくてもビジョンを皆で作ることが地域再生への一歩です。



会場から 株式会社ブルーリバー 岩崎 積氏  
地域の立て直しを事業として展開中です。人口500人という地域に、65人の方を招きました。ただ、人口増加には限界があります。より有効な方策を追究しています。

### 02 農村女性の力を点から線、そして面へ

山邊 勝氏 農業農村活性化研究所代表



農村女性の力を活かすことが地域活性化の大きな鍵。直売所のネットワークは、点から線そして法人間連携という面への展開につながり相乗効果が出ています。活動の持続には、中山間を離れた方々の能力の活用なども肝要だと思っています。



会場から 山口県農業協同組合中央会 横山 彰子氏  
JAの中にも小さなグループが多く存在しそれぞれが活発に活動しています。それがつながれば大きな力となり地域活性化に結び付くのではないかと思っています。

### 04 モノからヒトへ、人材が地域を変える

入江 嘉則氏 広島県神石高原町まちづくり推進課長

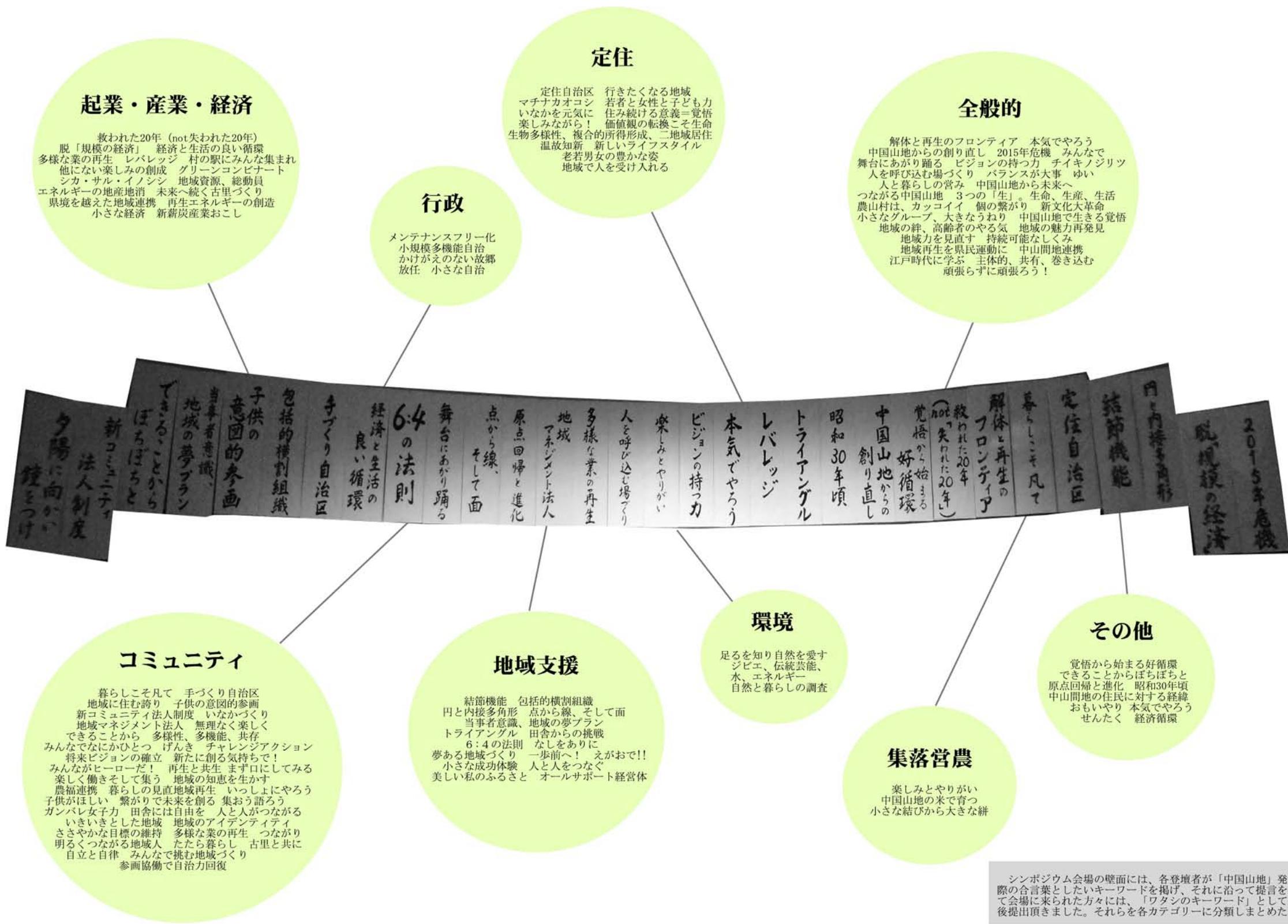


補助金から補助人へ。集落支援員や地域おこし協力隊など、人を中心とした新しい過疎対策が進められています。「行政」「地域・集落」「地域サポート人」というトライアングル、またそこから広がるネットワークを活用し、本気で取り組む姿勢が大事です。



会場から 美郷町地域おこし協力隊 原田 志樹氏  
島根県美郷町の場合、約20人、地域おこし協力隊がいます。受け入れ前に、何年もかけて話し合うなど事前準備がしっかりとされており、隊員が活動しやすい状況です。

# 中国山地Ⅱ 地域再生の フロンティアシンポジウム



シンポジウム会場の壁面には、各登壇者が「中国山地」をテーマで地域再生を進める際の合言葉としているキーワードを掲げ、それに沿って提言を発表しました。そして会場に来られた方には、「ワタシのキーワード」として、10文字以下で記入後提出頂きました。それらを各カテゴリーに分類しましたのがこの裏面です。